

五ヶ丘まちづくりニュースレター

第7号



令和7年度 第4回五ヶ丘まちづくりワークショップを開催しました！

10月26日（日）に、令和7年度第4回「五ヶ丘まちづくりワークショップ」を益富交流館で開催し、25名の方にご参加いただきました。

五ヶ丘が目指す地域の姿を取りまとめることを目標に、今回は「医療・福祉」をテーマとして、医療も福祉も充実していて安心して暮らせるまちであるためには、また、誰もが健康で元気に暮らせるまちであるためには何が必要か、何ができるかについてみんなで意見交換しました。

また、今回のワークショップには太田市長も見学に来られて、市の介護予防の取り組み「ずっと元気！プロジェクト」についてお話しいただきました。

話し合いの成果を、来年度には具体的な活動につなげていきたいです。主体的に動いていただける方に出てきてもらえることを期待しています。

あいさつ

高橋支所の前田支所長から、第5回・第6回のワークショップで、「まちの将来像」について話し合うこと、あわせて来年度以降の活動に向けた期待について話がありました。



前田支所長のあいさつ

①豊田市の健康づくりに関する現状

健康づくり応援課担当者から、『豊田市の健康づくりに関する現状』についてお話しいただきました。

「健康づくり豊田21計画」に基づき、個人で取り組む健康づくり・みんなで取り組む健康づくりを進めていること、地域や学校・事業所などでの健康づくりを応援するためのメニューについて紹介がありました。

また、「益富中学校 地域健康カルテ」を使って、益富地区の健康に関する現状について説明いただきました。



②グループワーク 『五ヶ丘の将来を語ろう！～医療・福祉編～』

5つのグループに分かれて、五ヶ丘の医療・福祉について意見交換していききました。

〔主な意見〕

(医療)

- 医療機関は少ない。遠い。徒歩圏に病院・医院がほしい。
- 普段使いの“かかりつけ医”を自分でつくるしかない。

(福祉)

- ひとり暮らしの高齢者が増えている。孤独死は防ぎたい。見守り活動を。ICT活用など先進的な取組を進めたい。
- 区民台帳で、ひとり暮らし高齢者を把握している自治区もある。このしくみを五ヶ丘全体に横展開できないか。
- 自治区でどこまでできるかの問題はあるが、支え合いの活動はしっかりと取り組んでいきたい。
- 住民が何に困っているのか把握できていない。皆で何に困っているのか話ができると良い。
- 日中は親が不在で子どもだけになる。災害時を考えると、子どもと地域にいる高齢者の関係をつくる必要がある。
- 福祉施設はスタッフ不足。入所したくてもできない状況。高齢者の増加で、ますます入所にいくくなる。
- デイサービスも空きがない。サロンとかで筋力維持・運動系のメニューを取り入れるとかしてはどうか。

(健康づくり)

- 遊歩道を有効活用しよう。おしゃべりしながらウォーキング。
- 元気アップ教室に来る方は元気な方。外出が少ない方の参加をどう促していくかが必要。



この五ヶ丘での取組は、来年度以降オール豊田で活用できると信じています。



太田市長

③今後のワークショップについて

12月（第6回）まで、テーマを決めて毎月ワークショップを開催します。
第5回、6回ワークショップでは「五ヶ丘の将来像」をみなさんと考えます。
参加を希望される方、ご興味のある方は、下記の連絡先へご連絡ください。👉



・第5回11月29日（土）14:00～16:30 テーマ：五ヶ丘の将来像を考える①

・第6回12月14日（日）10:00～12:00 テーマ：五ヶ丘の将来像を考える②

第6回までのワークショップでまとめた「五ヶ丘の将来像」は「第2回五ヶ丘まちづくりミーティング」で、住民のみなさんに発表します。

・第2回五ヶ丘まちづくりミーティング 2月7日（土）14:00～16:00

五ヶ丘東小学校



【発行】五ヶ丘自治区連合会、豊田市（高橋支所地域振興担当）令和7年10月

【連絡先】電話：0565-80-0077、メールアドレス：takahashi-shisho@city.toyota.aichi.jp